

令和7年度 第1回技術講習会（令和7年度 第1回愛媛県道路メンテナンス担当者会議）開催概要

○愛媛県内の関係機関連携のため、課題の状況を継続的に把握・共有し、効果的な老朽化対策の推進や新技術の使用を積極的に検討していくことで技術力・知識の向上を図ることを目的に、道路メンテナンス担当者を対象とした担当者会議を毎年開催。

○座学は、年間スケジュールの共有や道路メンテナンスの技術支援、予防保全型メンテナンスへの本格転換などについて今後の道路維持への関わり方を説明。また、新技術活用の促進や全国の地方整備局が開催している職員による自主点検の研修制度について説明。

○実習は、道路橋の現地点検実習を実施。NETIS・性能カタログの両掲載技術である「ひびみっけ」を利用し、主に橋梁下部工（コンクリート部）の点検を実施。橋脚部については、地上レーザースキャナーでの計測を行い、点群データの作成も行った。また、実際に打音検査や鉄筋探査の実技も実施し、新技術と近接目視等の基本的な点検を組み合わせた点検方法について学習した。

【開催日時・場所等】

開催日：令和7年7月24日（木）10:30～15:00

場 所：（座学）愛媛県生涯学習センター4階大研修室（Web併用）

場 所：（実習）愛媛県道16号線（松山伊予線）中川原橋 左岸

参加者：愛媛県内道路管理者（国・県・市町）72名が参加（Web含）

※愛媛県下の全20市町が参加

【開催内容】

（座学）①年間スケジュール ②道路メンテナンスの技術支援

③予防保全型メンテナンスへの本格転換

④新技術活用の促進（点検支援技術活用）など

（現地）①道路橋点検実習（ひびみっけ） ②打音検査、鉄筋探査

③道路橋点検実習（3Dスキャナーの活用方法）など

講習会での意見等

- ・道路点検車両についての地方（全国的）での運用事例を提供していただきたい。
- ・新技術の活用は必要だが、経済性以外の部分で事業損失を評価し、活用できる仕組みを構築する必要が出てくるのではないかと。
- ・地上レーザースキャナーの点群データで橋梁台帳のような形で利用したい。

今後の展望

- ・今後のインフラメンテナンス社会に対応するために、実習での新技術への取組等は大事であるが、道路管理者の経験や知識の上積みも非常に大切であり、打音検査や近接目視の基本的な点検によって、個人個人の点検スキルや技術力の向上が必要であると考えます。その中で新技術を適所で使用できる能力を身につけていけるような講習会を実施していきたい。



<ひびみっけ実技状況>



<3Dスキャナー実技状況>



<鉄筋探査実技状況>



<ひびみっけ解析状況>



<3Dスキャナー解析状況>



<クラック計測状況>